

株式会社ウオロクホールディングス
ポジティブ・インパクト・ファイナンス評価書

2025年2月28日

第四北越リサーチ&コンサルティングは、第四北越銀行が株式会社ウオロクホールディングスに対してポジティブ・インパクト・ファイナンスを実施するに当たって、同社の企業活動が環境・社会・経済に及ぼすインパクト(ポジティブな影響およびネガティブな影響)を分析・評価した。

分析・評価に当たっては、株式会社格付投資情報センターの協力を得て、国連環境計画金融イニシアティブ(UNEP FI)が提唱した「ポジティブ・インパクト金融原則」および環境省ESG 金融ハイレベル・パネル ポジティブインパクトファイナンスタスクフォースがまとめた「インパクトファイナンスの基本的考え方」に則った上で、包括的なインパクトを分析した。

目次

1. 企業概要	
(1) 企業概要	1
(2) 沿革	1
(3) 事業内容	2
(4) 創業の精神・企業理念	3
(5) サステナビリティ方針	4
2. インパクトの特定	
(1) 事業性の評価	8
(2) バリューチェーン分析	9
(3) インパクトレーダーによる分析	10
(4) 特定したインパクト	14
(5) インパクトニーズの確認	18
3. インパクトの評価	
(1) 地産地消の促進（生産者の顔が見える商品の提供）	21
(2) ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境の整備	22
(3) 環境に配慮した取り組み	23
4. モニタリング	
(1) インパクトの管理体制	24
(2) モニタリング方法	24

1. 企業概要

(1) 企業概要

株式会社ウオロクホールディングス(以下、同社)は、食品スーパーを運営する株式会社ウオロク(以下、ウオロク)を傘下に持つ。同社は購買業務、資金調達業務を行い、スーパーの店舗運営を担うウオロクの本部機能を果たしている。

企業名	株式会社ウオロクホールディングス
本社所在地	新潟県新潟市中央区鏡二丁目14番13号
設立	2016年1月
資本金	1億円
事業内容	飲食料品等卸売業

企業名	株式会社ウオロク
本社所在地	新潟県新潟市中央区鏡二丁目14番13号
設立	1953年5月
資本金	3億4,320万円
売上高	91,423百万円(2024年3月期)
従業員数	3,908名(パートナー・アルバイト3,055名/8時間換算) (2024年3月時点)
事業内容	食品スーパーマーケット

(2) 沿革

ウオロクは、1953年5月、資本金1百万円にて、「株式会社魚六」として設立された。1962年10月に社名を「株式会社スーパー魚六」に変更、1982年5月に現在の「株式会社ウオロク」に変更している。

1962年11月にウオロクのスーパーマーケット1号店である「中央店」を新潟市内に開店して以降、新潟市内や下越地区に続々と出店し、営業地区を拡大していった。業容の拡大に対応するため、1983年11月に生鮮物流拠点として「物流センター」を新潟卸団地内に開設、1990年3月に本社機能を現在地に移転した。

1998年、中越地区初進出となる「見附店」、2003年10月には長岡市への初出店となる「長岡店」をオープンさせて、営業地区はさらに拡大した。営業地区の拡大に対応し業務の効率化を図るため、2013年6月に新潟市中央卸売市場内に冷凍品物流向けの「フローズンセンター」、2014年4月に新潟市北区に食肉加工センターとして「新崎センター」を開設し、2016年4月に鮮魚センター、チルドセンター、ドライセンターと分散していた物流拠点を統合し「新潟総合物流センター」を新潟市江南区に新設した。

2017年9月に魚沼市に初出店となる「魚沼店」、2023年10月に上越地区に初出店となる「上越店」をオープンし、現在は営業地区を新潟県内一円に広げている。

さらに、2020年9月に「ウオロクリサイクルセンター」を新潟総合物流センターの敷地内に新設し、稼働を開始している。ウオロクの各店舗で排出されるリサイクル資源物（ダンボール、発泡スチロールなど）や顧客から収集したアルミ缶や牛乳パックなどの資源物を納品車両の帰り便を利用して本リサイクルセンターに集約し、一括して再資源化する仕組みを構築している。

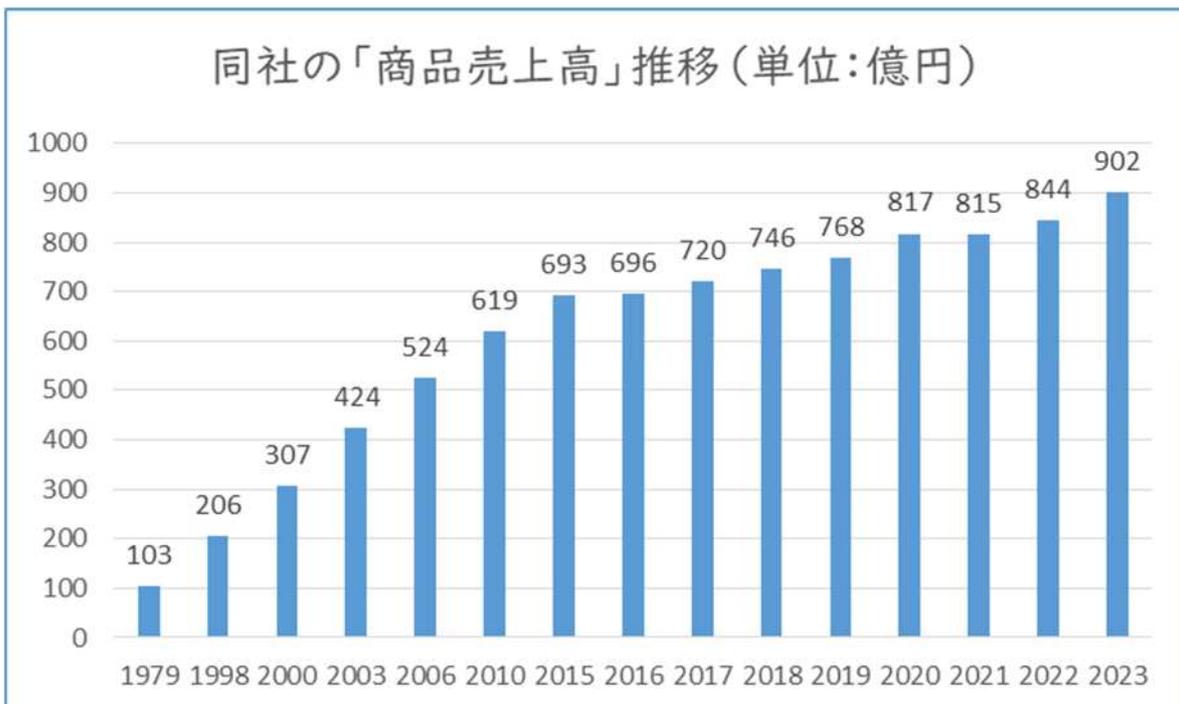
2022年7月には惣菜や生鮮加工の製造拠点「ウオロク生鮮デリカセンター」を本格稼働している。これまで仕入れていた商品の製造を内製化し、差別化できる独自の味を生み出すことで、高鮮度で安定した高品質の生鮮・デリカ商品を各店舗へ供給している。

また、2011年4月に地域密着の商品づくりや、高齢化に対応した出店計画が認められ、新潟経済の振興・発展に寄与した企業団体を表彰する「新潟県経済振興賞」を、2012年11月にリサイクル等に積極的に取り組み優れた成果を上げた県内事業所を表彰する「新潟県優良リサイクル事業所表彰」を受賞するなど、ウオロクの取り組みは多方面から高く評価されている。

ウオロクは「おいしく楽しい食卓と豊かな生活を提供する」ことを使命としており、引き続き顧客に喜んでもらえるような商品を販売するとともに、サステナブルな社会の実現へ向けて貢献していく方針である。

(3) 事業内容

ウオロクの主力事業は、運営するスーパーマーケットでの食品全般、日用雑貨、衣料品、医薬品、酒類、住関連品の販売である。ウオロクは新潟県内に44店（2024年3月現在）を配し、地域密着型の展開をしている。



資料:ウオロクのWebsite <https://www.uoroku.co.jp/company/about.html> を基に当社作成

(4) 創業の精神・企業理念

ウオロクは、「創業の精神・企業理念」として、以下のものを掲げている。

【創業の精神・企業理念】

創業の精神・企業理念

ウオロクは
お客様に叱られ愛され親しまれ
誠実と挑戦を行動の基準とし
お客様の新鮮な生活を創造しながら
お取引先、株主、社員と共に発展します。

資料:ウオロクの Website <https://www.uoroku.co.jp/company/spirit.html>

「創業の精神・企業の理念」は、『より快適な生活と心の豊かさを提供し、創造することを企業使命として、ウオロクは今後とも、お客様の新鮮な生活を創造することに努力し、社会に貢献していかねばいけません』との創業者の考えを表したものである。

ウオロクは、この「創業の精神・企業理念」をもとに、「お客様に叱られ、愛され、親しまれ」ることを通じて「地域のみなさまにとってなくてはならないお店」と言ってもらえるように努力を続けている。

【創業者のこころ】

創業者の心

私たち商人は、お客様に叱られ、愛され、そして親しまれて成長していくものと考えています。
私も、新鮮な魚をお届けするために、自転車に積んで、一軒一軒お客様を訪問して一生懸命売る努力をしてみました。
良いものを真心をこめて売ること努めたおかげでお客様はどんどんついていただけました。
"一度逃げたお客様は二度と帰って頂けない"と肝に銘じて頑張ってきました。
私は常に新しいもの、大きいものに挑戦し続けてきました。
挑戦するものが大きければ大きいほど、新しければ新しいほど、為せば為るとファイトを燃やしました。
私はスーパーマーケットを流行の先端に行く近代経営の花形産業と考えています。
これからは、単に物の充足のみを提供すればよいという時代ではありません。
より快適な生活と心の豊かさを提供し、創造することを企業使命として、
ウオロクは今後とも、お客様の新鮮な生活を創造することに努力し、
社会に貢献していかねばいけません。

資料:ウオロクの Website <https://www.uoroku.co.jp/company/spirit.html>

(5) サステナビリティ方針

2021年4月、ウオロクグループは国連が提唱する「SDGs」に賛同し、経済的発展と持続可能な社会実現に向けた課題解決の両立を図るべく「SDGs宣言」を策定した。

【ウオロクグループ SDGs宣言】



ウオロクグループ SDGs宣言

〈基本理念〉

ウオロクグループは、国連が提唱する持続可能な開発目標「SDGs」に賛同し、事業活動を通じて経済的発展と社会的課題の解決の両立を図り、持続可能な社会の実現に貢献します。

- ① お客様の豊かな食卓と健康を支えます。
- ② 人と環境と社会にやさしい店づくりを進めます。
- ③ ウオロクにかかわるすべての人たちの成長と幸福を追求します。
- ④ 地域のみなさまとともに歩みます。

〈重点項目〉

3 すべての人に健康と福祉を	5 ジェンダー平等を實現しよう	8 働きがいも 経済成長も	11 住み続けられるまちづくりを	12 つくる責任 つかう責任	13 気候変動に具体的な対策を	17 パートナリシップで目標を達成しよう
----------------	-----------------	---------------	------------------	----------------	-----------------	----------------------

2021年4月1日
株式会社ウオロクホールディングス
代表取締役社長 **本多伸一**

「SDGs(エスディーゼーズ)」とは
「Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)」の略称であり、2015年9月に国連で開かれたサミットの中で世界のリーダーによって決められた、国際社会の共通目標です。「17の目標」と「169のターゲット(具体目標)」で構成されています。



資料:ウオロクの Website <https://www.uoroku.co.jp/news/social/000587.html>

ウオロクが推進しているSDGs達成に向けた取り組みは多岐にわたるものであるが、「環境に配慮した取り組み」「社会に配慮した取り組み」「従業員に配慮した取り組み」の3つに大きく分けられる。

①環境に配慮した取り組み

ウオロクは下記の環境経営方針を定め、基本理念および基本方針のもと、持続可能な社会の実現に貢献することを目指している。

【ウオロクの環境経営方針】



The poster features the Uoroku logo (a red stylized 'U' with the text 'ウオロク' below it) in the top left corner. The title '環境経営方針' (Environmental Policy) is prominently displayed in the center. Below the title, the 'Basic Philosophy' and 'Basic Policy' are outlined. The text is centered and separated by horizontal lines. At the bottom right, the representative director's name '本多伸一' (Shinichi Honda) is written in a calligraphic style, with his title '株式会社ウオロク 代表取締役社長' (Uoroku Co., Ltd. Representative Director) printed to the left. The background is a light beige color with decorative green trees and bushes at the top and bottom edges.

ウオロク

環境経営方針

【基本理念】

私たちは、
地域社会の一員として環境保全活動に取り組むとともに、
環境経営を継続的に発展させ、
持続可能な社会の実現に貢献します。

【基本方針】

- 環境や社会に配慮した商品を積極的に販売します。
-
- 食品廃棄物の削減とリサイクルに取り組みます。
-
- 二酸化炭素排出量の削減を推進します。
-
- 資源の節約と有効活用に努めます。
-
- 環境関連の法律、規制、条例等を遵守します。
-
- 環境教育を計画的に実施します。

2021年4月1日

株式会社ウオロク
代表取締役社長 **本多伸一**

資料:ウオロクの Website <https://www.uoroku.co.jp/activities/environmental.html>

またウオロクでは、2012年7月5日付で「エコアクション21」の認証・登録を受けている。今後とも環境に配慮した取り組みを継続し、地域と一緒に環境問題に取り組んでいく方針である。

②社会に配慮した取り組み

(i) 食育活動

ウオロクが取り組んでいる食育活動が評価され、2019年6月に農林水産省より、食育推進活動を行っている団体の中で特に優れた食育活動を行っている団体を表彰する「食育活動表彰」において「消費・安全局長賞」を受賞した。

【食育活動表彰受賞】



資料:ウオロク「ECO PLUS 2024」 <https://www.uoroku.co.jp/activities/>

(ii) 社会貢献活動

「スポーツを通じた地域貢献」として、サッカー・J1リーグのアルビレックス新潟と「オフィシャルクラブパートナー」の契約を締結、WEリーグに所属するアルビレックス新潟レディースとスポンサー契約を締結するなど新潟のスポーツ界を支える役割を果たしている。

また「子どもたちの成長を応援する」取り組みとして、社会科見学や職場体験の受け入れを積極的に行っており、2023年4月～12月の9カ月間で、小学生から高校生まで延べ約3,000人の児童・生徒の受け入れを行っている。さらに「BSN キッズフェスティバル 2023」への出展や各地区の「子育て支援カード」の取り扱い、小学生を対象にした「ちびっこマラソン」「サッカークリニック」「ミニサッカーフェスタ」の開催などを実施している。

加えて2023年2月より、新発田市内の緑店・東新町店・住吉店・コモ店・小舟店の5店舗において、消費期限・賞味期限が近い商品を廃棄に回る前に購入してもらう方策として「ハピタバシール」を使用した「ハピタバ」という活動を開始している。なお、この活動が評価され、2024年1月に「新潟SDGsアワード」の経済部門において優秀賞を受賞している。

③従業員に配慮した取り組み

(i) 人材育成

従業員の仕事への意欲を高めるための取り組みの一環として、若手従業員が店舗で取り組んだ改善事例を発表し、社内で共有する機会を設けている。従業員は上記のような発表会に参加することで、自身の仕事ぶりや周囲の状況を見直す機会にもなり、仕事へのモチベーションをより一層高めている

(ii) 健康経営

ウオロクは従業員の健康経営に配慮した様々な活動を行っている。その一環として、新潟県が従業員等の健康づくりに積極的に取り組む企業等を支援する「にいがた健康経営推進企業」に登録されたほか、新潟市が健康経営に取り組む事業を認定する「新潟市健康経営認定制度」で従来シルバークラスの認定を受けていたが、2025年度よりゴールドクラス認定を受けることが決まっている。

(iii) 福利厚生制度

働く従業員のため、以下のような永年勤続表彰制度、結婚・出産祝い金を設けるなど、様々な福利厚生制度を定めている。これらの制度により、ウオロクの従業員が安心して働くことができる環境が整えられている。

【ウオロクの福利厚生制度】

 <p>働く社員のための制度です。</p>	<p>髪色制限の撤廃</p> <p>多様性を尊重し、髪色の制限を撤廃しました。</p>	
	<p>永年勤続表彰制度</p> <p>正社員は勤続30年・40年、パートナー社員は20年・30年に特別休暇と旅行券を支給しています。</p>	<p>結婚・出産祝い金</p> <p>社員本人の結婚・出産にお祝い金を支給しています。</p>
	<p>LTD制度</p> <p>長期間働けなくなった時のための、収入保障制度があります。</p>	<p>財形貯蓄制度</p> <p>給与天引きで1,000円単位で積み立てができます。</p>
	<p>住宅購入補助制度</p> <p>新築、建売購入、住宅リフォームをする社員及びその家族に対し、費用の割引を受けることができます。</p>	<p>帰省旅費補助</p> <p>借上げ社宅を利用している社員に対し、月4回まで帰省するための交通費を支給しています。</p>
	<p>社員社宅制度</p> <p>自宅から40km以上離れた勤務地に配属されると、通える距離の場所に社宅を用意してもらえます。(一部負担あり)</p>	<p>施設利用の推進</p> <p>フィットネスクラブ「JOYFIT」、カルチャー&スパ+スポーツ「エンジョイライフクラブ」を社員価格で利用できます。</p>
	<p>パースデー休暇制度</p> <p>社員本人の誕生日に年次有給休暇を取得できます。</p>	<p>リフレッシュ休暇制度</p> <p>年次有給休暇を活用し、年2回、まとまった休暇を取得することができます。(最大6連休)</p>

※当社では、短時間勤務社員をパートナー社員と呼んでいます。

2. インパクトの特定

(1) 事業性の評価

ウオロクは、「おいしく楽しい食卓とより豊かな生活を提供すること」を自らの使命ととらえて、これからも顧客と心を通わせながら、顧客に喜んでいただき、役に立てるよう努力していく方針である。そのために以下のような工夫をこらし、顧客が納得、満足、そして感動する商品やサービスを提供できるよう日々努めている。

① 美味しさへのこだわり

ウオロクは顧客から美味しいと言ってもらえる商品を提供するために、特に品質にこだわっている。産地・鮮度・製法にこだわったオリジナル商品には、「旨い!これがウオロク品質。」のラベルを付けて販売している。

例えば「極うま柔らかとんかつ」は特に製法にこだわっており、新鮮な豚ロースに、一枚一枚丁寧に店舗でパン粉を付けて揚げている。衣には、厳選した4種のパン粉をブレンドして使用し、じっくりと揚げることでサクサクとし、食感まで美味しいと好評を博している。

他にも、製法や鮮度、産地にこだわった多数の商品を開発している。



② 目利きの仕入れ

数ある食材の中から目利きのバイヤーが選んだ逸品を店頭に並べている。「産地へのこだわり」「育成方法へのこだわり」「製造方法へのこだわり」など、バイヤーは様々なこだわりを持ちながら、顧客に自信をもって勧めることができる商品を選択している。



③プライベートブランドの充実

ウオロクは「食卓応援宣言」を掲げ、味や品質にこだわって開発したオリジナル商品を多数販売している。



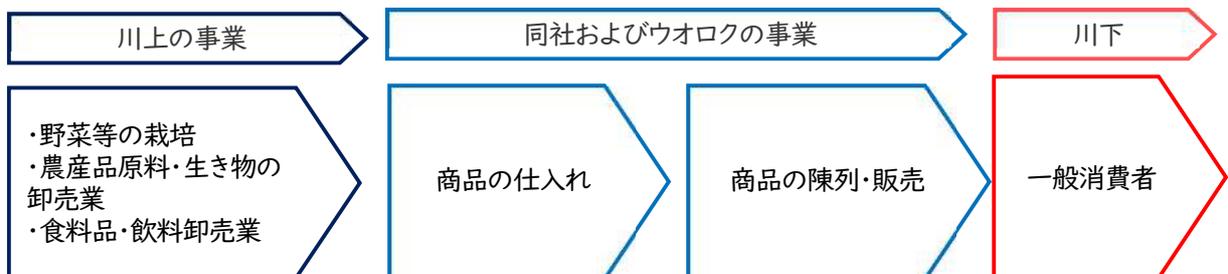
④味と素材にこだわったおいしさ自社製造商品「myUOROKU」

味と素材にこだわり、自社惣菜センターで一貫製造することで、毎日でも飽きないとの声が寄せられているような手軽に食べられる惣菜をラインナップしている。



(2)バリューチェーン分析

同社では商品の仕入れ業務を中心に行っており、株式会社ウオロクではウオロクホールディングスが仕入れた商品を中心にウオロクが展開しているスーパーウオロクの各店で一般消費者を対象に販売を行っている。



(3) インパクトリーダーによる分析

① インパクトの検証

上記のバリューチェーン分析の結果をもとに、UNEP FI (国連環境計画・金融イニシアティブ) が提供するインパクトリーダーを用いて、包括的なインパクト分析をすると、以下の表のようになる。これはウオロクが属する業種の「ポジティブインパクト」(以下 PI)と「ネガティブインパクト」(以下 NI)が社会的側面、環境的側面、経済的側面を反映した22のインパクトカテゴリのうち、どのカテゴリに発現するのかを明らかにしたものである。

国際産業標準分類 インパクトカテゴリ	川上の事業								同社および ウオロクの事業	
	【0113】 野菜及びメロン、根菜 及び塊茎の栽培		【4620】 農産品原料及び 生き物卸売業		【4630】 食料品、飲料及び たばこ卸売業		【4649】 その他の家庭用品 卸売業		【4711】 食料品、飲料または たばこが主な 非専門店小売業	
	PI	NI	PI	NI	PI	NI	PI	NI	PI	NI
水		◎								
食料	◎		○		○				○	
住居										
健康・衛生	◎	○		○		○	○			○
教育										
雇用	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○
エネルギー										
移動手段										
情報										
文化・伝統										
人格と人の安全保障		◎								
正義・公正										
強固な制度・平和・安定										
水(質)		◎		○		○		○		
大気				○		○		○		
土壌		◎								
生物多様性生態系サービス		◎		○		○		○		
資源効率・安全性		◎								
気候		◎		○		○		○		
廃棄物		◎		○						
包括的で健全な経済	○								○	
経済収束	○									

注1:◎は大きな影響があり、○は影響ありを示す。注2:国際産業標準分類(International Standard Industrial Classification:ISIC)のカテゴリ

同社およびウオロクの事業については、「食料品、飲料またはたばこが主な非専門店小売業 (ISIC:4711)」を適用し、発生するインパクトを検証した。

また、川上の事業については、「野菜及びメロン、根菜及び塊茎の栽培 (ISIC:0113)」「農産品原料及び生き物卸売業 (ISIC4620)」「食料品、飲料及びたばこ卸売業 (ISIC:4630)」「その他の家庭用品卸売業 (ISIC:4649)」を適用し、発生するインパクトを検証した。なお、同社およびウオロクの川下は一般個人消費者が大多数であるため、検証は省略している。

③ 川上の事業

川上の事業においては、ウオロクと関連性の高いインパクトについて検証を行った。

【食料】【健康衛生】

川上の事業で発生するインパクトをみると、「食料」のカテゴリについて、生産物を提供することによって地域住民の食生活が支えられるという PI が発現する。また、「健康・衛生」のカテゴリについて、栄養素が高く安全・安心な生産物を提供することで、一般消費者の健康面への貢献をもたらすという PI が発現する。

同社は地元の農家と連携して新鮮な野菜を直接仕入れているほか、前述した「目利きの仕入れ」を活用して、顧客が満足する商品を提供するよう努めている。

SDGs では、以下のターゲットに該当すると考えられる。

- 2.1 2030 年までに、飢餓をなくし、すべての人々、特に貧困層や乳幼児を含む状況の変化の影響を受けやすい人々が、安全で栄養のある十分な食料を一年を通して得られるようにする。
- 3.4 2030年までに、非感染性疾患による早期死亡率を予防や治療により3分の1減らし、心の健康と福祉を推進する。

【雇用】

「雇用」のカテゴリについては、労働によって生産者の収入や家計が支えられるという PI と、労働環境によっては従業員の健康状態が害されたり、重大な災害事故が発生するという NI が発現する。

ウオロクおよび同社は、2023年5月に「パートナーシップ構築宣言」を行い、サプライチェーンの取引先や価値創造を図る事業者との連携・共存共栄を進め、新たなパートナーシップを構築するための取り組みを実施することとしている。

SDGs では、以下のターゲットに該当すると考えられる。

- 8.5 2030年までに、若者や障害者を含むすべての女性と男性にとって、完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい仕事(ディーセント・ワーク)を実現し、同一労働同一賃金を達成する。
- 8.8 移住労働者、特に女性の移住労働者や不安定な雇用状態にある人々を含め、すべての労働者を対象に、労働基本権を保護し安全・安心な労働環境を促進する。

【人格と安全保障】

ウオロクおよび同社の事業との関連性が希薄であると判断し、検証を省略する。

【水(質)、大気、土壌、生物多様性と生態系サービス、資源効率・安全性、気候、廃棄物】

「水(質)」「大気」「土壌」「生物多様性と生態系サービス」「資源効率・安全性」「気候」「廃棄物」といった環境的側面におけるカテゴリについては、農産物の生育の過程で、水質汚染や大気汚染、土壌汚染、生態系の破壊、エネルギーの過剰な利用、温室効果ガスの排出、廃棄物の発生といったリスクが高まるというNIが発現する。

ウオロクでは前述した「パートナーシップ構築宣言」において、川上の事業者を含めたサプライチェーン全体で、地球環境保全の取り組みや脱・低炭素社会構築に向けた取り組みを行うこととしている。

SDGsでは、以下のターゲットに該当すると考えられる。

- 6.3 2030年までに、汚染を減らし、投棄をなくし、有害な化学物質や危険物の放出を最小化し、未処理の排水の割合を半減させ、再生利用と安全な再利用を世界中で大幅に増やすことによって、水質を改善する。
- 12.4 2020年までに、合意された国際的な枠組みに従い、製品ライフサイクル全体を通して化学物質や廃棄物の環境に配慮した管理を実現し、人の健康や環境への悪影響を最小限に抑えるため、大気、水、土壌への化学物質や廃棄物の放出を大幅に減らす。
- 12.5 2030年までに、廃棄物の発生を、予防、削減(リデュース)、再生利用(リサイクル)や再利用(リユース)により大幅に減らす。
- 13.3 気候変動の緩和策と適応策、影響の軽減、早期警戒に関する教育、啓発、人的能力、組織の対応能力を改善する。

②同社およびウオロクの事業

【食料】【健康衛生】

「食料」のカテゴリについて、食料品を提供することによって地域住民の食生活が支えられるというPIが発現する。一方、「健康・衛生」のカテゴリについて、提供する食料品の内容によっては一般消費者の健康を損なうというNIが発現する。

同社およびウオロクでは、顧客に「おいしく楽しい食卓とより豊かな生活を提供すること」を自らの使命とし、安心・安全な商品の仕入れや提供を行っている。

SDGsでは、以下のターゲットに該当すると考えられる。

- 2.1 2030年までに、飢餓をなくし、すべての人々、特に貧困層や乳幼児を含む状況の変化の影響を受けやすい人々が、安全で栄養のある十分な食料を一年を通して得られるようにする。
- 3.4 2030年までに、非感染性疾患による早期死亡率を予防や治療により3分の1減らし、心の健康と福祉を推進する。

【雇用】

「雇用」のカテゴリについては、労働によって従業員の収入や家計が支えられるという PI と、労働環境によっては従業員の健康状態が害されるという NI が発現する。

同社およびウオロクでは男性の育児休業の取得率や有給休暇の取得率の向上に積極的に取り組むなど、健康で働きやすい環境の整備を進めている。

SDGs では、以下のターゲットに該当すると考えられる。

- 8.5 2030年までに、若者や障害者を含むすべての女性と男性にとって、完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい仕事（ディーセント・ワーク）を実現し、同一労働同一賃金を達成する。
- 8.8 移住労働者、特に女性の移住労働者や不安定な雇用状態にある人々を含め、すべての労働者を対象に、労働基本権を保護し安全・安心な労働環境を促進する。

【包括的で健全な経済】

「包括的で健全な経済」のカテゴリについては、ウオロクが適切な価格で商品を提供することで地域住民が豊かな生活を享受でき、地域経済が活性化するという PI が発現する。

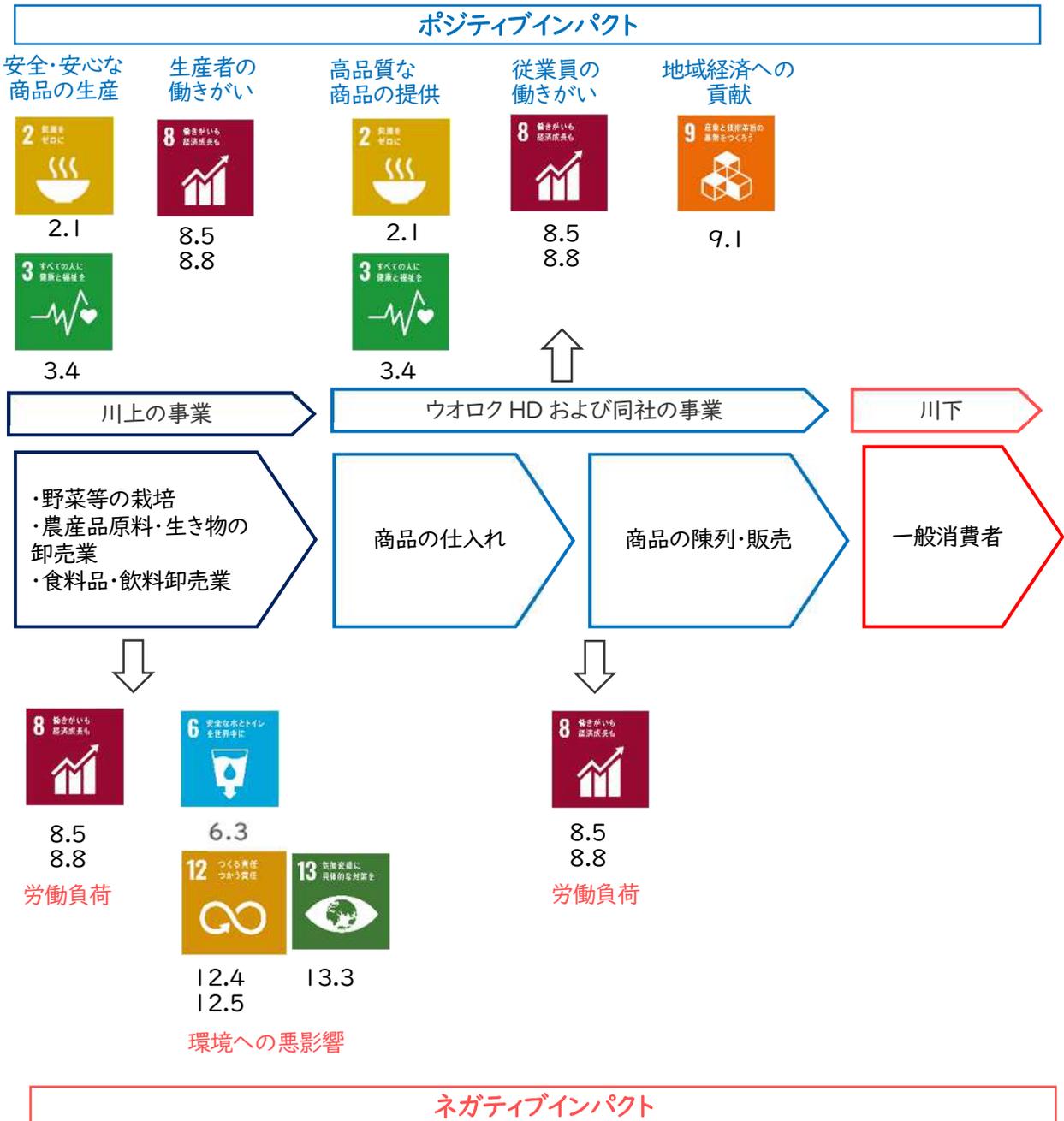
ウオロクは、経営理念の中で「お客様の新鮮な生活を創造しながら、お取引先、株主、社員と共に発展します。」と掲げており、地域経済の発展に貢献していく姿勢を示している。

SDGs では、以下のターゲットに該当すると考えられる。

- 9.1 経済発展と人間の幸福をサポートするため、すべての人々が容易かつ公平に利用できることに重点を置きながら、地域内および国境を越えたインフラを含む、質が高く信頼性があり持続可能でレジリエントなインフラを開発する。

(4) 特定したインパクト

下図は「バリューチェーン分析」「インパクトレーダーによるマッピング」の結果を踏まえて、ウオロクのバリューチェーンが与えるインパクトを可視化したものである。



以上を踏まえてウオロクのインパクトを下記のように特定した。

- ① 地産地消の促進(生産の顔が見える商品の提供)
- ② ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境の整備
- ③ 環境に配慮した取り組み

① 地産地消の促進(生産者の顔が見える商品の提供)

ウオロクの環境経営方針で掲げる基本方針の一つとして、「環境や社会に配慮した商品を積極的に販売します。」がある。ウオロクでは、本方針を具現化する取り組みとして、地元の農家が栽培する野菜を直接購入、店頭で販売するという取り組みを積極的に行っている。なお、この取り組みが評価され、ウオロクの新潟市内にある店舗(松浜店、豊栄店、葛塚店、牡丹山店、中野山店、空港通店、女池店、神道寺店、デッキイ401店、鳥屋野南店、馬越店、関屋店、亀田店、新津店、白根大通店、大学前店、内野店、上新栄町店、巻店)は、2024年6月時点で新潟市より「地産地消推進の店」として認定されている。

またウオロクでは、鮮魚部門においても県内各地の漁港から獲れたての魚介類を仕入れ、店頭に並べており、鮮度の良さが顧客の評判を呼んでいる。加えて、地域に根ざした日配品や菓子なども取り扱っており、地元の業者と連携して地域の活性化に貢献している。

さらに、ウオロクから出た魚のアラを主原料とする肥料を使って生産された農作物を「エコろく野菜」としてブランド化し、シールを貼って柏崎店・桜木店(ともに柏崎市)、長岡店(長岡市)、新津店(新潟市秋葉区)、亀田店(新潟市江南区)、中野山店(新潟市東区)の6店舗で販売しており、美味しくてかつ安全なブランドとして好評を得ている。この取り組みは地産地消の促進に貢献しているだけではなく、本来は食品廃棄物となるものを有効に活用することにより、廃棄物の削減にもつながっている。なお、この「エコろく野菜」の取り組みは、3R(リデュース・リユース・リサイクル)への貢献が評価され、平成26年度3R推進協議会「農林水産大臣賞」を受賞している。

【エコろく野菜】



中野山・亀田「エコろく野菜」農家さん



「エコろく野菜」はエコ×ウオロク×野菜

資料:ウオロクのWebsite <https://www.uoroku.co.jp/activities/recycle-loop.html>

【平成26年度3R推進協議会「農林水産大臣賞」の表彰状】



資料:ウオロクのWebsite <https://www.uoroku.co.jp/activities/recycle-loop.html>

このインパクトは UNEP FI のインパクトレダーでは「食料」「包括的で健全な経済」のカテゴリに該当し、社会的・経済的側面の PI を拡大させる。

SDGs では、以下のターゲットに該当すると考えられる。

- 2.1 2030 年までに、飢餓をなくし、すべての人々、特に貧困層や乳幼児を含む状況の変化の影響を受けやすい人々が、安全で栄養のある十分な食料を一年を通して得られるようにする。
- 9.1 経済発展と人間の幸福をサポートするため、すべての人々が容易かつ公平に利用できることに重点を置きながら、地域内および国境を越えたインフラを含む、質が高く信頼性があり持続可能でレジリエントなインフラを開発する。

② ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境の整備

ウオロクおよび同社は、2024年9月の「ウオロク健康経営宣言」を制定し、従業員が心身ともに健康で働ける優しい会社であるよう努めることとしている。本宣言では具体的な数値目標として、「健康診断受診率100%」「特定保健指導実施率60%」「ストレスチェック実施率(6H 以上勤務)100%」を掲げている。

また、ワーク・ライフ・バランスの実現を目指した取り組みの一環として、男性従業員の育児休業の取得を推奨している。すでに育児休業を取得した従業員の体験記を会社内外に発信することにより、育児休業の取得に向けての気運を高めるなどの工夫を行っている。

【男性従業員の育児休業体験記】

男性社員の育児休業体験記

男女問わず育児休業の取得を希望する方は、事前に申し出ることで取得できます。分割での取得も可能になり、より育児と仕事の両立をしやすくなりました。

■取得してよかったこと

初産でしたので、妻もいろいろと初めてで不安な中、少しでも精神面・体力面での負担も軽減できたかと思えます。また、2週間ではありますが娘の生まれたての姿を間近で見ることができ、大変うれしく思います。

■これから取得する方へのアドバイス

育児取得期間で、夫として何をサポートするのが最適かしっかり夫婦で話し合ってお互いに真剣に取り組ましましょう！お休みを頂いていますが、夫としての業務です(笑)家の事を一手に引き受けるのか、奥様の身の回りのサポートなのか、はたまた子供の世話なのか…。やってみると意外と楽しいですよ。



興野店店長 中峯智樹 さん

■取得してよかったこと

夫婦で助け合い楽しさも苦しさも共有できたことです。息子が生後1週間のタイミングから約2週間の育児を取得しましたが、長男の時はこのタイミングで妻の助けをすることが中々できなかった為、非常に貴重な経験となりました。改めて育児は母親だけで行うものではなく夫婦で力を合わせて行うべきことだと学べました。

■これから取得する方へのアドバイス

昔とは違い、父親の育児への関心が深まっている時代です。会社からは育児へしっかりと携われるよう引継ぎや応援体制等を十分にバックアップしてもらえますので、仕事のことは心配をせずに間近で子の成長を感じてください。人生に限られたタイミングしかありませんので、是非父親にも育児を取得し育児に没頭してもらいたいと思います。



亀田店店長 豊島吉人 さん

このインパクトはUNEP FIのインパクトレーダーでは「雇用」のカテゴリに該当し、社会的側面のPIを拡大させる。

SDGsでは、以下のターゲットに該当すると考えられる。

- 8.5 2030年までに、若者や障害者を含むすべての女性と男性にとって、完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい仕事(ディーセント・ワーク)を実現し、同一労働同一賃金を達成する。

③ 環境配慮への取り組み

ウオロクでは、脱炭素社会の構築に貢献するために、店舗およびセンターの屋根上に太陽光パネルの設置を進め、現在までに12店舗と2つのセンターで計5.5MWの太陽光発電設備の導入を完了している。

また、LED照明の導入や業界トップクラスの省エネ性能を持つ空調機器に随時更新するなど、脱炭素につながる設備投資を継続して行っている。加えてデマンド監視装置を導入し、AIによる予測を用いて省エネにつながる行動を画面に表示させることで、従業員のタイムリーな省エネ活動を促すなど、ハード・ソフト両面において、省エネおよび脱炭素社会の実現に向けた活動を行っている。

このインパクトはUNEP FIのインパクトレーダーでは「気候」などのカテゴリに該当し、環境的側面のNIを低減させる。

SDGsでは、以下のターゲットに該当すると考えられる。

- 13.3 気候変動の緩和策と適応策、影響の軽減、早期警戒に関する教育、啓発、人的能力、組織の対応能力を改善する。

【ウオロクが設置している太陽光発電設備】



資料:ウオロク「ECO PLUS 2024」 <https://www.uoroku.co.jp/activities/>

(5) インパクトニーズの確認

①日本におけるインパクトニーズ

ウオロクの事業は主に日本国内を中心に展開されているため、日本のインパクトニーズ (SDGs の17の目標別の達成度) とウオロクのインパクトとの関係を確認した。

本評価書で特定したインパクトに対応する SDGs の目標は、以下の5点である。

- 目標2 飢餓を終わらせ、食料の安定確保と栄養状態の改善を実現し、持続可能な農業を促進する
- 目標8 すべての人々にとって、持続的でだれも排除しない持続可能な経済成長、完全かつ生産的な雇用、働きがいのある人間らしい仕事(ディーセント・ワーク)を促進する
- 目標9 レジリエントなインフラを構築し、だれもが参画できる持続可能な産業化を促進し、イノベーションを推進する
- 目標13 気候変動とその影響に立ち向かうため、緊急対策を実施する

「Sustainable Development Report 2024」をもとに日本のインパクトニーズをみると、目標の「13」は「大きな課題が残っている」、「2」「8」は「重要な課題が残っている」と位置付けられている。したがって、日本のインパクトニーズとウオロクのインパクトは整合していると判断できる。

【 Sustainable Development Report 2024 】



資料:SDSN の Website <https://dashboards.sdgindex.org/profiles/japan>

②新潟県におけるインパクトニーズ

ウオロクの主な事業地域である新潟県では、「新潟県 SDGs 未来都市計画」を策定している。新潟県では、2030年のあるべき姿を

豊かな自然としなやかに共存する「住んでよしの新潟」

とし、経済、社会、環境の各側面のあるべき姿を以下のとおり公表している。

- 【経済】** 将来を支えるイノベーションの創出と持続可能な産業構造への転換
- 【社会】** 安全・安心で持続可能な地域づくりとこれを支える人づくり
- 【環境】** 気候変動への対応と県土の保全、豊かな自然との共存・未来への継承

本評価書で特定したウオロクのインパクトである「①地産地消の促進(生産者の顔が見える商品の提供)」は、**【経済】**の側面である「将来を支えるイノベーションの創出と持続可能な産業構造への転換」を支えるものであり、「②ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境の整備」は、**【社会】**の側面である「安全・安心で持続可能な地域づくりとこれを支える人づくり」に貢献するものである。また、「③環境配慮への取り組み」は、**【環境】**の側面である「気候変動への対応と県土の保全、豊かな自然との共存・未来への継承」につながるものである。したがって、新潟県が目指すSDGsの方向性と、ウオロクが目指すSDGsの取り組みは整合していると判断できる。

【新潟県未来都市計画における2030年のあるべき姿(経済・社会・環境の側面別)】

- ① **【経済】 将来を支えるイノベーションの創出と持続可能な産業構造への転換**
 - ・ 産官学の連携により、過去の災害経験を活かした防災関連産業が県内に集積することにより、新たなビジネスの創造と雇用の場が生み出されている。
 - ・ 地域の安全・安心を支える建設企業におけるICTの活用、DX が推進されることにより、安定的・持続的な産業として将来にわたりその重要な役割を果たしている。
 - ・ 恵まれた地域資源を活かした再生可能・次世代エネルギーの導入が進み、関連産業の参入・育成が促進され、エネルギー供給基地としての優位性が高まる。
- ② **【社会】 安全・安心で持続可能な地域づくりとこれを支える人づくり**
 - ・ 地域の防災・減災について、行政の支援はもちろんのこと、住民や地域自らが理解と知識を深め活動し、互いの安全・安心を支え合う、自助・公助・共助による地域防災力の向上が図られている。
 - ・ あわせて、県民が気候変動問題への関心を有し、理解を深めている。
- ③ **【環境】 気候変動への対応と県土の保全、豊かな自然との共存・未来への継承**
 - ・ 再生可能エネルギー・脱炭素燃料等の「創出」・「活用」や省エネ、省資源による CO₂ 排出「削減」、森林整備や新たな技術開発による CO₂ の「吸収・貯留」の四つを柱とする取組など、2030年度の温室効果ガス排出量の削減目標である2013年度比46%削減(2050年までの温室効果ガス排出量実質ゼロ)に向けた取組が進むとともに、気候変動影響への適応策が適切に実施されている。
 - ・ 森林をはじめとした豊かな自然が保全・活用され、有害鳥獣との棲み分けなどにより、人身被害や農作物被害が低減されている。

資料:新潟県「新潟県 SDGs 未来都市計画」 <https://www.pref.niigata.lg.jp/uploaded/attachment/338328.pdf>

③ 第四北越銀行が認識する社会課題との整合性

第四北越銀行は第四北越フィナンシャルグループとして、地域の持続的な成長を実現するため、2019年5月に「第四北越フィナンシャルグループ SDGs 宣言」を制定し、地域が抱える社会・環境課題などの解決に向けて取り組んでいる。「第四北越フィナンシャルグループ SDGs 宣言」は、以下のとおり5つの宣言で構成されている。

- 宣言1 地域経済・社会 地域経済とコミュニティの活性化に貢献します
- 宣言2 高齢化 高齢者の安心・安全な生活を支えます
- 宣言3 金融サービス より良い生活をおくるための金融サービスを提供します
- 宣言4 ダイバーシティ ダイバーシティ・働き方改革を推進します
- 宣言5 環境保全 持続可能な環境の保全に貢献します

本評価書で特定したウオロクのインパクトである「①地産地消の促進(生産者の顔が見える商品の提供)」は、「宣言1 地域経済・社会 地域経済とコミュニティの活性化に貢献します」と方向性が一致している。また、「②ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境の整備」は、「宣言4 ダイバーシティ ダイバーシティ・働き方改革を推進します」、「③環境配慮への取り組み」は、「宣言5 環境保全 持続可能な環境の保全に貢献します」に寄与する。

以上のように、第四北越銀行が目指すSDGsの方向性と、ウオロクのSDGsの取り組みは整合していると判断でき、SDGs達成に向けた資金需要と資金供給とのギャップを埋めることにつながるものである。

【第四北越フィナンシャルグループ SDGs 宣言】



資料:第四北越銀行の Website <https://www.dhbk.co.jp/company/csr/index.html>

3. インパクトの評価

(1) 地産地消の促進(生産者の顔が見える商品の提供)

項目	内容
インパクトの種類	<ul style="list-style-type: none"> 社会的側面においてポジティブインパクトを拡大 経済的側面においてポジティブインパクトを拡大
インパクトカテゴリ	「食料」「包括的で健全な経済」
関連する SDGs	 
取組方針・取組内容	<ul style="list-style-type: none"> 地域の農家と消費者をつなぐことで地域の活性化を図るため、地元の農家から直接野菜を仕入れ、店頭で販売する活動を促進する。
KPI	<ul style="list-style-type: none"> 2026年3月期以降の地場産直野菜の販売額につき、前期比3%増を每期達成する。 <p>【過去の実績】</p> <p>2023年3月期： 1,897百万円</p> <p>2024年3月期： 1,972百万円(前期比+3.9%)</p> <p>2025年3月期(見込)： 2,100百万円(前期比+6.4%)</p>

(2)ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境の整備

項目	内容
インパクトの種類	<ul style="list-style-type: none"> 社会的側面においてポジティブインパクトを拡大
インパクトカテゴリ	「雇用」
関連するSDGs	
取組方針・取組内容	<ul style="list-style-type: none"> 従業員に対して継続的に啓蒙活動を実施することによって男性社員の育児休業取得率および全従業員の有給休暇取得率を高め、従業員が豊かな人生を送りながら仕事で能力を発揮できる環境の整備を促進する。
KPI	<ul style="list-style-type: none"> グループ全体の男性社員の育児休業取得率 <ul style="list-style-type: none"> 2026年3月期：60%以上 2027年3月期：62%以上 2028年3月期：65%以上 2029年3月期：68%以上 【過去の実績】 2023年3月期：38% 2024年3月期：58% 2025年3月期(見込)：59% グループ全体の従業員の有給休暇取得率 <ul style="list-style-type: none"> 2026年3月期：70%以上 2027年3月期：71%以上 2028年3月期：72%以上 2029年3月期：73%以上 【過去の実績】 2023年3月期：67.7% 2024年3月期：68.0% 2025年3月期(見込)：69.0%

(3) 環境に配慮した取り組み

項目	内容
インパクトの種類	<ul style="list-style-type: none"> 環境的側面においてネガティブインパクトを緩和
インパクトカテゴリ	「気候」
関連する SDGs	
取組方針・取組内容	<ul style="list-style-type: none"> 省エネに努めるとともに太陽光発電の導入をすすめるなど各種施策を通じて、温室効果ガスの排出を抑制し、脱炭素社会の実現に貢献する。
KPI	<ul style="list-style-type: none"> グループ全体の売上あたり CO₂ 排出量 (排出総量も継続的に削減する) <p>2026 年 3 月期: 0.265 t-CO₂/百万円以下 2027 年 3 月期: 0.258 t-CO₂/百万円以下 2028 年 3 月期: 0.251 t-CO₂/百万円以下 2029 年 3 月期: 0.245 t-CO₂/百万円以下</p> <p>【過去の実績】</p> <p>2023 年 3 月期: 0.31554 t-CO₂/百万円 2024 年 3 月期: 0.28521 t-CO₂/百万円 2025 年 3 月期(見込): 0.27094 t-CO₂/百万円</p>

4. モニタリング

(1) インパクトの管理体制

同社は古泉財務部長を中心に自社グループの業務の棚卸をおこない、本評価書のインパクトの特定や取組方針・取組内容、KPI を策定した。

今後については同氏を中心に、SDGs の推進、本評価書で策定した KPI を管理していく方針にある。

【モニタリング体制】

統括責任者	取締役 財務部長 古泉 隆弘
担当部署	財務部

(2) モニタリング方法

本評価書で策定した KPI の進捗状況については、同社と第四北越銀行、第四北越リサーチ&コンサルティングが年に1回は定期的に情報を共有し、その達成状況や課題をモニタリングするとともに、必要に応じて課題解決に向けた提案を行う。

【留意事項】

1. 本評価書の内容は、第四北越リサーチ&コンサルティングが現時点で入手可能な公開情報、同社から提供された情報、同社へのインタビューなどで収集した情報に基づいて、現時点での状況を評価したものであり、将来における実現可能性、ポジティブな成果等を保証するものではない。
2. 第四北越リサーチ&コンサルティングが本評価に際して用いた情報は、第四北越リサーチ&コンサルティングがその裁量により信頼できると判断したものであるものの、これらの情報の正確性等について独自に検証しているわけではない。第四北越リサーチ&コンサルティングは、これらの情報の正確性、適時性、網羅性、完全性、および特定目的への適合性その他一切の事項について、明示・黙示を問わず、何ら表明または保証をするものではない。
3. 第四北越リサーチ&コンサルティングは本評価書を利用したことにより発生するいかなる費用または損害について一切責任を負わない。
4. 本文書に関する一切の権利は第四北越リサーチ&コンサルティングが保有している。本文書の全部または一部を自己使用の目的を超えて、複製、改変、翻案、頒布等を行うことは禁止されている。